

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200331		
法人名	株式会社しなのき		
事業所名	グループホームしなのき真宮		
所在地	福島県会津若松市真宮新町南1丁目2番1		
自己評価作成日	令和8年3月2日	評価結果市町村受理日	令和8年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和8年4月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が日々の生活の中で、安心安全に生活できるように、会社理念の「笑顔の介護」を日々心掛けております。ラジオ体操やリハビリ体操を継続的に行うことで、身体機能の維持向上の努めてまいります。週に1度の手作りの食事づくり、プランターでの花や野菜作りも入居者の皆様と継続して取り組んでいくことで、入居者の方々が生きがいや楽しみを持つことができ、入居者やご家族、地域の方々に笑顔になっていただけるように励んでいきます。外出や地域行事へ参加することで、住民の方々との交流の機会を図れるよう努めます。

市内から離れた環境で窓から見える風景で季節を感じながら、入居者様の希望やご家族様の思いに寄り添った生活を送れるように支援体制を整えて参ります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 基本はチルド食であるが、週に1回、利用者の好みを取り入れた昼食を提供している。事業所のプランターで収穫した作物等を活用し、利用者のお手伝いを頂き、また行事食の実施等で楽しめる食事環境を提供している。
2. 管理者は日々の業務をとおり、職員とのコミュニケーションを深め、意見や提案を吸い上げ、やりがいや向上心をもって働けるよう環境づくりにも努めている。毎朝のミーティング時に職員の表情にも留意し、小まめな声かけを行っている。
3. 浴槽にリフトが設置されており、浴槽が跨げない人でも全員浴槽につかることができ、職員と会話をしながら入浴が楽しめるよう支援している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム開設時に考案した理念を業務前に職員が確認し、理念を理解してケアに努めている。	地域密着型の意義をふまえて作成された事業所理念は、毎朝の申し送りや業務ミーティングの際に確認できるよう掲示しており、職員間で共有されており、日々の支援の中で理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加できたので、今後も参加できる行事等あれば地域交流の場が広がるように、努めていきたい。	町内会へ加入し、地域のお祭りに利用者と参加し、地域の人と交流を図っている。また、近隣の散歩等も実施しており、更なる地域交流につながるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや市主催の定期的に行われる研修や活動、事業所内の認知症研修に参加し、認知症を理解しそれを実践できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、会議メンバーからのアドバイスや課題等を真摯に受け止め、サービスに活かせるように努めている。	地域包括支援センター代表・自治会代表・民生委員・家族代表・利用者代表に参加していただき、運営推進会議を開催している。会議では利用者の生活状況や事業内容を報告し、参加した委員から意見を出してもらい、出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告や検討事例等を含め、市の高齢福祉課や地域包括、居宅支援事業所と連携を図り、情報共有に取り組んでいる。	行政担当者には、介護保険の認定更新時の相談や事故等の報告、不明点等の問い合わせをし、事業所の実情を伝え協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社主催の定期的に行われている身体拘束適正委員会に代表者が参加し、事前に職員間で話あった事などを報告し、ケアに活かせるように努めている。	身体的拘束等適正化指針を基に法人の開催する身体拘束適正化委員会へ代表者が参加している。また、別に事業所で拘束廃止委員会が開催されているが、指針に定められたものではないため、別途内規を作成し、取組につなげて欲しい。勉強会で、身体拘束による弊害の理解を深め、帰宅願望の利用者の話を傾聴し寄り添い、身体拘束をしないケアに努めているが、玄関は防犯のためにロックされている。	指針に沿って開催した委員会はその内容を参加できなかったすべての職員へ情報共有し、職員一人一人が支援内容を振返られるようチェックリストを実施して欲しい。事業所内で実施している委員会は指針に定められたものではないため、指針に基づく委員会の実施が望まれる。また、玄関の施錠も開錠へむけて取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社主催の定期的に行われている虐待防止適正委員会に代表者が参加し、事前に職員間で話あった事などを報告し、ケアに活かせるように努めている。	虐待防止規程に沿って、法人で開催される委員会へ代表者が参加しているが、その内容は職員間で情報共有されていない。また、事業所で虐待防止委員会が開催されているが、指針に定めたものではない。勉強会は年に2回、実施されている。	事業所で開催されている委員会は指針に沿ったものではないため、法令に則した規程を作成することが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当するご利用者様はいらっしゃらないが成年後見制度が必要な際には各関係機関と連携し、相談や活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約内容について説明を行い、ご家族様や入居者様が理解できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時や来所時にはご家族様へ状態報告を行い、意見や思いを聴く事で、運営に反映できるようにしている。	家族の面会時・電話連絡時に、利用者の生活状況・健康状態等を報告し、その都度、家族からの意見・希望を伺い、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務時には、職員間で申し送り簿や経過記録を活用しながら申し送りをし状態を把握、業務ミーティング時には各職員が意見を言える時間を設けている。	職員の意見や要望は業務ミーティング・申送り・個別相談等で把握しており、業務見直しをする等、運営に反映させている。個別面談は実施していないが、職員の様子を見ながら、管理者等から話しかけ悩みを聞き取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が仕事へのやりがいや向上心を持って業務に励めるように、声掛けや意見等を出るだけ尊重する事で、働きやすい環境づくりに努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われる事業所内の研修や包括主催の研修等に参加することで、職員内のスキルアップに励んでいる。	新入職員が入った場合等は担当者を決めてOJTを行い、ケアの向上に努めている。また、法人の作成した研修計画に沿って、職員の質の向上に務めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括や市の高齢福祉課に連絡する際には情報交換に努め、密に連携を図れるように努めている。 会津地区グループホーム協議会の会議へ定期的に参加し意見交換や研修の中で情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いやご家族の思いを知り、職員間で共有する事で、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や連絡時等の際には、ご本人の近況状況を伝え、ご家族の意見や要望等に耳を傾けながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の意向や希望を話せる機会を作り、必要とされているサービス内容を見極める事でより良いサービスを提供出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の身体状態に合わせ、食材の皮むきや食器類の後片付け、お盆を拭いて頂いたりタオルや衣類を一緒にたたむなど共同して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を保ち、ご家族と共にご本人を支えていく関係を築き、出来る限り思いに添える支援が出来るように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や写真などを通じて馴染みの方等の関係が途切れないように努め、必要時にはご家族と連絡し、支援に努めている。 携帯電話をうまく操作できない方に代わり電話に応じ本人へ繋ぐなどの支援を行っている。	家族の協力で自宅へ戻り過ごす他、馴染みの美容室等に出かける利用者もいる。家族が友人や知人を連れてきてくれ、馴染みの関係が途切れないよう面会等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の特性を把握し、日々の生活の中でレクリエーションや食事作りの場を設け、入居者様同士の関わり合いを多く持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に他施設や協力施設、担当の介護支援専門員と情報共有する事で必要時には支援できるように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前にはご本人やご家族に思いを聴き、日々の生活の中でその思いに添えるよう務めております。	毎日のケアの中で利用者の思いや意向を把握し、家族の意見や意向も確認している。また、日常生活の中での表情・行動や仕草から推測して汲み取り、利用者本位の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族や関係機関などよりこれまでの生活環境や日々のご様子などを伺うことで今後のホームでの暮らしに活かせるよう状態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の会話や支援中の行動などよりご本人のできる事を見つけ職員間で共有しながら活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心安全に穏かに過ごせることを常に考え、職員やご家族の意見を把握しながら個別性を考え、計画に反映出来るように心がけている。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した介護計画の援助内容に即した支援を行っている。毎月のサービス担当者会議では、日常的な利用者の変化や課題を出し合い対応策を検討しているが、職員の理解が不十分で介護記録に援助内容の実施ごとの記録がない場合が見られた。	介護記録には介護計画の援助内容の実施状況を記録し、記録を基にモニタリングし、ケアに反映させることが重要である。そのため職員は、介護計画を理解し、個別記録を適切に残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日経過記録を記入と申し送りを行うことで職員同士情報共有する事が出来、必要な時は検討や見直しを行い、より良い計画作りができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し必要時には多職種や各機関と情報共有や連携を図り、柔軟な対応ができるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活力を活かせるよう地域住民との交流を深め情報収集を行い、ご本人の力を発揮できる場を見つけ楽しみや生きがいを見つけることができるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況等に変化があった際には、主治医に連絡や相談をし、ご家族の希望を聞き取りながら安心して医療を受けられるように支援している。	往診できる医師の受診を推奨し、協力医の往診への変更の意向を確認している。往診結果は、変化があった場合のみ毎月の報告書に記載して家族へ報告している。検査等の外来受診は、家族対応や介護タクシー利用とし、事前に主治医に情報を伝達し、結果は報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で心身状況の変化に気付いたことを申し送り等で情報共有を行い適切にご家族や医療機関等と連携が図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が変化した際には、主治医、ご家族との連絡を密にとり、状態変化に備え情報を共有出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には、ご家族や主治医に速やかに連絡、相談し、必要時には各連携機関や他事業所等に相談するように心掛けている。	契約時に看取りをしていないことを説明し、同意のうえ入居していただいている。重要事項説明書の内容を伝える時に、将来重度化した場合の医療機関等へ移送や特別養護老人ホームへの入所、福祉器具貸与に関する自己負担等の説明をしている。重度化した場合は、主治医や家族と話し合い家族の希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に緊急連絡網を下に、速やかな対応を出来るように定期的に訓練を行っている。定期的な研修により心肺蘇生の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に基づいて訓練を行い、災害時に備え全職員がスムーズに対応できるように努めている。BCP研修に参加し机上訓練などを行い、自分の施設の避難場所・避難経路・備蓄品の確認を行った。	ハザードマップでは、1～2mの浸水区域になっている。火災想定避難訓練を年2回実施しているが、水害訓練は実施していない。水害時は近くの小学校へピストン運転で避難する予定でいる。近隣住民や運営推進会議委員の避難訓練の参加実績はなく、協力体制は構築されていない。夜間想定訓練は、すぐに職員がかけつけた想定での実施であった。	水害時の避難開始時期、避難先や避難方法を事前に決定し、職員に周知するとともに避難訓練の実施が望まれる。年間計画を立て夜間の火災想定訓練を中心に、様々な想定避難訓練を数多く実施することが望まれる。また、地域との協力体制の構築が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔の介護を基本方針に、職員は一人ひとりの入居者様の人格を尊重し、穏かな声掛けが出来るように努めている。	利用者に対して強い口調にならないように注意している。毎年、社内で接遇、倫理・法令遵守の研修を実施し参加した職員が伝達研修を行い全員に周知している。失禁した場合は、周囲に気づかれないように居室、トイレや浴室に誘導して羞恥心や自尊心に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定時には、入居者様の思いを尊重し、思いに寄り添った意思決定が出来るように励んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いにできる限り寄り添った支援が出来るように、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換時には、ご本人に確認しながらその人らしさや個性に併せた身だしなみが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	週に1回の食事作りの際には、事前に入居者様に意見を聞き、より楽しみに思える様に努めている。	食材配送会社のチルド食や冷凍食を提供しているが、週1回は利用者の希望を聞きながら職員が近くのスーパーから食材を購入し、手作りの料理を作って提供している。利用者は皮むきなどに参加している。行事食は、食材配送会社に特別食を注文して刺身などを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個性に併せた食事形態、食事量を提供する事で、偏りなく栄養や水分を摂取して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に排泄時にはトイレへ誘導しご自身の意思を尊重しつつ、個別性に併せて声かけ習慣の把握に努めている。	基本的に、トイレに誘導してトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表により排泄パターンを把握し利用者ごとに声かけをして誘導している。頻尿のため失禁が多かった利用者は定期誘導や薬の処方により改善が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックはチェック表を活用する事で排便状態を把握し、適度な運動や水分補給を進め、必要時には主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の個別性に併せ、入浴時には気持ちよく、安心安全に入浴できるように励んでいる。 可能な範囲で本人の希望に寄り添い曜日・時間を決める。	週2回、午前中の中の入浴を基本としている。現在、夕方や夜間の中の入浴を希望する利用者はいない。機械浴を導入し、全員がお湯に浸かっている。菖蒲や柚子、入浴剤は使用していないが、利用者が職員と会話を楽しみながら入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様、一人ひとりに合わせて、安心して睡眠出来る環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の内服薬を把握に努め、変化があった際には看護師等に報告し、必要時には主治医に相談や指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとの手作業や日々の食器洗いや洗濯たたみ等日常の家事を通じて、役割を持つたり楽しみや生きがいの発見、気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の安定した時期は外出行事等を検討したり、施設周辺に出かける機会をつくり、季節を感じて頂いたり地域交流の場が広がるように努めている。	天気の良い日は、屋外に簡易ベンチを設置して外気浴を行っている。年4回は、花見・紅葉狩りなどでドライブに出かけている。職員は管理者の指示や同行がないと外出しない傾向があるため職員の意識を変え、今後は花壇やプランターで花や野菜栽培を行い、水やりや収穫など日常的に屋外に出る機会を増やす予定でいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本、ご家族にお願いしており、施設で必要な際にはご家族に確認、相談し一時的に施設で立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた際にはご本人と繋いだり、手紙が届いた際には開封や代わりに読む。ご本人の希望する際には電話をかけることを支援したり、手紙を書くことを希望された際にはその支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒暖に注意しながら空調の調整のほか、季節などが感じられるよう外のご様子がかかるよう窓の開度や外の空気を取り入れることで季節を感じて頂けるよう努める。	ホールには時計とカレンダーを設置し、ホワイトボードに年月日を大きく書いて利用者が暦や時間を認識し安心して生活できるよう努めている。また、季節に応じた装飾を飾り、レクリエーションのカレンダー作りや塗り絵などで季節を感じて貰う工夫をしている。また、ホールや廊下に椅子をいて自由に寛げるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が交流できるように、1日の大半はホールで過ごされることを支援したり、休みたいときには居室内で過ごす時間を設け、負担のないように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で使用していた物や馴染みの物を取り入れる事で、急激な環境の変化に不安の軽減に心掛けている。	居室はベッド・クローゼット・チェスト・エアコンが備え付けられている。利用者は馴染みの寝具や人形、ラジオ、遺影、縫いぐるみ、雑誌を持ち込んでいる。また家族の写真や自分で作成した作品を壁面に掲示している。化粧品やアクセサリを自由に並べている利用者もいて、その人らしい居場所づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の掃除や整理整頓時には出来る所を手伝って頂き、ひとりひとりの思いに合わせた空間作りに努めている。		